

問題

下記の文章を読んで、あなたが考える「デザイン言語」とは何かを説明しなさい。

【字数制限なし】

デザインとは我々の生活している環境、道具から身体や動きまであらゆるものに形や方法を与える行為であり、我々はデザインという行為から逃れることはできない。これほど一般的な活動でありながら、一方で非常に特殊な性格をもった特別な活動でもある。このパラドックスが、「デザイン言語総合講座」で取り扱っているテーマである。

空間、建築、道具、などの「デザイン」について議論することすら非常に複雑な作業であることに加えて、現在ではサイバースペースもまたデザイン行為の対象となろうとしている。そこで本書では、実際にデザイン行為を行っているデザイナーや人間のデザイン行為を研究している研究者に、建築、グラフィックデザイン、舞踊など多岐にわたって論じてもらった。

総合講座のタイトルは「デザイン言語」とした。デザインという言葉で我々が連想する美的情緒的な意識と言語という言葉で連想する論理的なメカニズムの両方を総合的に考えるというアプローチを「デザイン言語」と呼んだわけである。誰でも普通に行う活動でありながら、突出した専門家が存在しているデザインの持つパラドックスをデザイン言語という表現に組み込ませてある。また、実際に自分で手を動かして考えてみる「デザインワークショップ」というタイトルで複数開講した演習では身体的に感性と論理の融合を学んでもらう。上手に絵を描くのではなく、人間が絵を描くという活動の意味を自ら絵を描くという行為を通して、論理的に考察することが狙いである。

デザインといっても、そのカバーする領域は広い。デザイン言語総合講座ではそれを「空間と環境の系」、「身体と知覚の系」、「平面とヴィジュアルの系」の三つに分類した。建築、グラフィックスデザイン、に限らず、人間の身体の動きやダンスなどもふくめた。

また、デザイン言語総合講座ではコミュニケーションシステムの視点からもデザインを考えている。デザインという作業に必要な高度に専門的な技術の習得を目的とするのではなく、グローバル化が進展し、またIT化が怒涛のように押し寄せている現代の社会の中で、デザインの直面している問題を自分の力で発見して組み立て、展開していくために基本的な能力を身につけてもらおうというのが総合講座の狙いである。

デザイン言語とは、イメージや空間を操作し創造していくためのツールであり、感覚と論理の双方の能力が要求され、両者を統括していくものである。したがってデザイン言語を学ぶことで、ただ絵の技巧を向上させるのではなく、イメージの力を用いながら問題発見と解決のプロセスを鍛練する方法を学生が学ぶことを講座の目的とした。デザイン言語は、感覚と論理の橋渡しをする実践のためのツールとして、いままで、デザイ

ンの領域とされてきた領域以外でも役に立つ。またサイバースペースの展開によって、今後さまざまな領域で、人工言語、自然言語とならんで重要視されてくることと思われる。

(出典)

奥出直人／後藤武編 『デザイン言語 感覚と論理を結ぶ思考法』
慶應義塾大学出版会 2002年 pp.12-13.